

黒瀬の仏像

浅茅湾の最奥部に位置する黒瀬の漁村に、対馬と朝鮮半島の長く複雑な関係を象徴するような不思議なブロンズ像が2体、慎ましやかに安置されている。

一つは、8世紀に新羅で鑄造されたとされる如来像（阿弥陀如来の可能性ある）。高さ46センチのこの仏像は、当時の新羅製の仏像としては最大のものとされ、重要文化財に指定されている。像の胴体や座面には大きな火傷が見られる。この貴重な作品がどのような経緯で黒瀬に来たのかは不明だが、地元では古くから安産の守護神として信仰を集めてきた。

もう一体の菩薩像は、14世紀後半に韓国で制作されたと推定されている。こちらにもひどい火傷を負っており、胴体や台座の一部が溶けて塊になっている。地元では伝統的にこの像は男性、新羅の仏像は女性とされていた。

像を納めるお堂は施錠されているが、対馬市に問い合わせれば見学は可能である。